

杉橋隆夫教授 略歴 執筆編年目録

略 歴

- 一九四六年七月六日 静岡県三島市に出生
- 一九六五年三月 静岡県立沼津東高等学校卒業
- 一九六五年四月 京都大学文学部入学
- 一九六九年三月 京都大学文学部国史学専攻卒業
- 一九六九年四月 京都大学大学院文学研究科入学
- 一九七一年三月 京都大学大学院文学研究科国史学専攻修士課程修了（文修第一一三号）
- 一九七四年三月 京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程単位取得退学
- 一九九七年三月 京都大学より博士（文学）の学位を授与される（論文博第三一九号）

職 歴

- 一九七四年四月 京都大学文学部国史学第一講座助手（陳列館古文書室勤務）
- 一九七六年四月 京都大学大学院指導教官に併任
- 一九七七年三月 京都大学助手退職
- この間、京都大学文学部において演習（国史学・古文書学）授業担当、京都市立芸術大学・甲子園短期大学・大阪樟蔭女子大学に出講
- 立命館大学文学部（日本史学専攻）助教授
- 東京大学史料編纂所国内研究員（一九八二年三月まで）
- 立命館大学大学院（文学研究科博士課程前期課程）授業担当 現在に至る
- 立命館大学文学部学生主事（一九八六年三月まで）
- 米国プリンストン大学（東洋学部）客員研究員（一九八九年三月まで）
- 一九八八年十月
- 一九八五年四月
- 一九八四年四月
- 一九八一年七月
- 一九七七年四月

- 一九八九年四月 立命館大学文学部教授に昇任 現在に至る
 一九九〇年四月 立命館大学文学部主事（一九九一年三月まで）
 一九九五年四月 立命館大学大学院（文学研究科博士課程後期課程）授業担当 現在に至る
 一九九六年四月 立命館大学協議員（一九九八年三月まで）
 一九九九年四月 立命館大学文学部長、学校法人立命館理事・評議員（二〇〇四年三月まで）
 一九九九年四月 立命館大学大学院文学研究科長（二〇〇三年三月まで）
 二〇〇五年七月 学校法人立命館評議員（二〇〇八年六月まで）

この間、愛媛大学（集中講義）・光華女子大学・京都府立大学・京都大学・京都女子大学・静岡大学（集中講義）・古代学
 研究所・京都大学大学院に出講

学会役員

- 一九七一年十一月 日本史研究会編集委員（以来、各種委員を歴任）
 一九七九年十一月 日本古文書学会評議員（一九八九年十月より監事）
 一九九一年十月 日本古文書学会理事・評議員 現在に至る
 一九九二年六月 史学研究会評議員（一九九五年三月より監事） 現在に至る
 一九九九年四月 立命館大学人文学会会長（二〇〇四年三月まで）
 二〇〇六年十二月 立命館史学会代表（二〇一〇年十二月まで）

《執筆編年目録》

「おててこ舞」についての（調査・見学）報告

〔「柝」六号、京都〈関西〉学生歌舞伎連盟、一九六八年三月〕

四天王寺所蔵「如意宝珠御修法日記」・「同」紙背（富樫氏関係）文書について

〔「史林」五三卷三号、一九七〇年五月〕

鎌倉初期の公武関係―建久年間を中心に―

〔「史林」五四卷六号、一九七一年十一月〕

大和国池田荘旧域保存問題

〔「日本史研究」一二五号、一九七二年四月〕

池田荘保存問題の現状

〔「歴史学研究」月報』一五四号、一九七二年十月〕

鎌倉前期政治権力の諸段階

〔「日本史研究」一三一号、一九七三年二月〕

四天王寺所蔵「如意宝珠御修法日記」紙背文書について
源頼朝と征夷大將軍（日本古文書学会第四回学術大会発表要旨）

（石川史書刊行会編『富樫氏と加賀一向一揆史料』北国出版社、一九七三年三月）
〔「古文書研究」六号、一九七三年十月〕

紹介／渡辺澄夫・喜多芳之編『大和国若槻庄史料 第一巻』

〔「史林」五七卷一号、一九七四年一月〕

鎌倉前期の政治過程
京都市地下鉄烏丸線工事計画と埋蔵文化財

（「京都大学大学院文学研究科博士課程研究論文要旨〈昭和四八年度〉」、一九七四年四月）
〔「日本史研究」一四一号、一九七四年四月〕

本文図表・写真解説、巻末年表、折り込み地図「鎌倉幕府の各国支配と守護設置状況」「鎌倉要図」「源頼朝の挙兵と東国豪族の動向」
校注／「四天王寺楽人林家楽書類 抜頭一件之留」

（芸能史研究会編『日本庶民文化史料集成 第一巻』三一書房、一九七四年九月）
（大山喬平著『日本の歴史 九 鎌倉幕府』小学館、一九七四年八月）

紹介／『かわにし 川西市史 第一巻』

〔「史林」五八卷四号、一九七五年七月〕

鎌倉幕府の官僚たち

〔「ブリタニカ国際大百科事典 Study Guide」、一九七五年十二月〕

鎌倉政権の成立

〔「歴史公論」二卷七号、一九七六年七月〕

院御所・京都守護・六波羅探題一覽

〔京都の歴史 第一〇卷〕学芸書林、一九七六年十月

事典項目／卿局、玉葉、九条兼実、皇族將軍、摂家將軍、丹後局、陳和卿、比企能員、平賀朝雅、牧の方、三浦義村、源通親、源頼家、和田合戦

〔新版 国民百科事典〕〈全十五卷〉平凡社、一九七六年十月

六波羅〈史跡でつづる京都の歴史23〉

〔京都民報〕、一九七六年十一月二八日

六波羅

〔門脇禎二編 史跡でつづる京都の歴史〕法律文化社、一九七七年十二月

鎌倉と関東

〔戸田芳実編 日本史 二〕中世一 有斐閣、一九七八年九月

紹介／松山宏著『武者の府・鎌倉』

〔史林〕六二卷一号、一九七九年一月

〔中世概説〕執筆、「使庁・探題の時代」編集・校注

〔史料 京都の歴史 三 政治・行政〕平凡社、一九七九年一月

北条時政と政子―その出身と心操―

〔歴史公論〕五卷三号、一九七九年三月

事典項目／安楽寿院、一条能保、大江公朝、金沢貞顕、卿の局、後白河天皇、後鳥羽天皇、皇族將軍、西園寺公経、西園寺実兼、西園寺家、慈円、治承

寿永の乱、城南宮、承久の変、摂家將軍、丹後局、長講堂、土佐坊昌俊、新田義貞、八条女院、平賀朝雅、九条兼実、藤原信西、藤原信頼、藤原道家、藤原頼長、平治の乱、北条重時、北条時政、北条政子、北条泰時、保元の乱、坊門信清、源通親、源義仲、源頼朝、吉田定房、

六代、六波羅探題

〔村井康彦編 京都事典〕東京堂出版、一九七九年三月

卷末地図「鎌倉時代の日本」、年表、「承久新守護・地頭図」・「鎌倉時代の京都」作図および解説

〔上横手雅敬編 図説 日本文化の歴史五 鎌倉〕小学館、一九七九年十一月

解説／高師泰書下・楠正儀国宣

〔藤井寺市文化財 第一号〕藤井寺市、一九八〇年三月

執権・連署制の起源―鎌倉執権政治の成立過程・統論―

〔立命館文学〕四二四～四二六合併号、一九八〇年十二月

孟蘭盆会

〔藤井寺市文化財 第二号〕藤井寺市、一九八一年三月

鎌倉執権政治の成立過程―十三人合議制と北条時政の「執権」職就任―

〔御家人制研究会編 御家人制の研究〕吉川弘文館、一九八一年七月

『静岡市史 通史編一 原始・古代・中世』第四編第一章～第三章

〔静岡市役所、一九八一年十二月〕

源頼朝の挙兵と北条時政

書評／奥富敬之著『鎌倉北條氏の基礎的研究』

百五十年の礎を築く頼朝の日々―配所と挙兵の謎―

窓について想うこと

河内源氏の出自―頼信告文と頼朝願文―

鎌倉右大将家と征夷大将軍

共編著／『藤井寺市史 第四卷 史料編二上』

一九八三年の歴史学界―回顧と展望―日本中世二（政治・法制）

公家政権と鎌倉幕府

源氏再興ののろし―頼朝の旗揚げと旭將軍―

事典項目／安徳天皇、石橋山の戦、一ノ谷の戦

事典項目／宇治川の戦、大内守護、大姫

事典項目／官打ち

事典項目／京都守護、俱利伽羅峠の戦

事典項目／建礼門院、後高倉院、後堀河天皇

頼信告文と頼朝願文―河内源氏出自考―（日本古文书学会第一六回学術大会発表要旨）

事典項目／石橋山の戦い、一谷の戦い

御成敗式目成立の経緯・試論

共編著／『藤井寺市史 第四卷 史料編二下』

事典項目／治承・寿永の内乱

事典項目／修明門院、順徳天皇、承久軍物語、承久記、承久の乱、承明門院

事典項目／墨俣川の戦

事典項目／高倉天皇、高倉範季、高倉範子、高階榮子、高階泰経、壇ノ浦の戦、土御門天皇

（『静岡県地域史研究会 会報』五号、一九八二年二月）

（『日本歴史』四〇八号、一九八二年五月）

（上横手雅敬責任編集『日本史の舞台 三』集英社、一九八二年五月）

（『立命館学園広報』一三四号、一九八二年九月）

（『藤井寺市史紀要』第四集、一九八三年三月）

（『立命館史学』四号、一九八三年六月）

（藤井寺市、一九八四年三月）

（『史学雑誌』九三編七号、一九八四年七月）

（『歴史公論』一〇巻一〇号、一九八四年十月）

（『読売新聞』大阪本社版夕刊、一九八四年十月三十一日）

（『大百科事典 第一巻』平凡社、一九八四年十一月）

（『大百科事典 第二巻』平凡社、一九八四年十一月）

（『大百科事典 第三巻』平凡社、一九八四年十一月）

（『大百科事典 第四巻』平凡社、一九八四年十一月）

（『大百科事典 第五巻』平凡社、一九八四年十一月）

（『古文书研究』第二三号、一九八四年十二月）

（『日本大百科全書 第二巻』小学館、一九八五年二月）

（岸俊男教授退官記念会編『日本政治社会史研究 下』塙書房、一九八五年三月）

（藤井寺市、一九八五年三月）

（『大百科事典 第六巻』平凡社、一九八五年三月）

（『大百科事典 第七巻』平凡社、一九八五年三月）

（『大百科事典 第八巻』平凡社、一九八五年三月）

（『大百科事典 第九巻』平凡社、一九八五年三月）

事典項目／宇治川の戦い

〔日本大百科全書 第三卷〕小学館、一九八五年四月

事典項目／富士川の戦

〔大百科事典 第一卷〕平凡社、一九八五年六月

事典項目／法観寺、牧氏の変

〔大百科事典 第一三卷〕平凡社、一九八五年六月

事典項目／三日平氏の乱、源通親、以仁王、屋島の戦

〔大百科事典 第一四卷〕平凡社、一九八五年六月

事典項目／和田合戦、和田義盛

〔大百科事典 第一五卷〕平凡社、一九八五年六月

事典項目／梶原氏、梶原景季、梶原景時、上総介広常、加藤景廉

〔日本大百科全書 第五卷〕小学館、一九八五年八月

成篁堂文庫所収文書と北条時政

〔成篁堂文庫刊行会会報〕二号、一九八五年九月

辞典項目／嵯峨、四条天皇、七条院

〔国史大辞典 第六卷〕吉川弘文館、一九八五年十一月

事典項目／関東御公事

〔日本大百科全書 第六卷〕小学館、一九八五年十一月

中世の武士とは何か

〔立命館大学人文科学研究所『土曜講座だより』一一一号、一九八五年十一月〕

事典項目／源平の合戦

〔日本大百科全書 第七卷〕小学館、一九八六年一月

論文評／佐々木文昭著「鎌倉幕府評定制の成立過程」

〔史学雑誌〕九二編九号〔法制史研究〕三五号、一九八六年三月

承久乱前・後の守護・地頭凶

〔週刊朝日百科』日本の歴史 四、一九八六年五月

『人車記』とその周辺

〔陽明叢書 文書記録篇 月報〕一三、一九八六年七月

事典項目／安徳天皇

〔日本架空・伝承人名事典〕平凡社、一九八六年九月

辞典項目／承久の乱

〔国史大辞典 第七卷〕吉川弘文館、一九八六年十一月

鎌倉執権政治の成立過程

〔日本古文书学会編』日本古文书学論集 五〕吉川弘文館、一九八六年十二月

執権・連署制の起源

〔日本古文书学会編』日本古文书学論集 五〕吉川弘文館、一九八六年十二月

共編／『兵範記人名索引 Ⅰ』

〔立命館文学』別巻、一九八七年三月

北条時政の出身―北条時定・源頼朝との確執―

〔立命館文学』創刊五〇〇号記念論集、一九八七年三月

共同研究／青木・池田・北川他編『真名本曾我物語

一』〔東洋文庫 四六八〕(平凡社、一九八七年四月)

事典項目／壇ノ浦の戦い

〔日本大百科全書 第一五卷〕小学館、一九八七年五月

一九八三年の歴史学界―日本中世Ⅱ(政治・法制)

〔日本歴史学界の回顧と展望 日本中世Ⅱ〕山川出版社、一九八七年六月

事典項目／土居通増

〔日本大百科全書 第一六卷〕小学館、一九八七年七月

事典項目／礪波山の戦い、土肥実平、名越家

〔日本大百科全書 第一七卷〕小学館、一九八七年九月

辞典項目／征夷大將軍、宗孝親、平重盛、平信範、平宗盛、平盛時、平六代

〔国史大辞典 第八卷〕吉川弘文館、一九八七年十月

事典項目／富士川の戦い

〔日本大百科全書 第二〇卷〕小学館、一九八八年三月

將軍の暗殺、尼將軍政子の大演説

〔上山英昭他編『話題源 歴史』東京法令出版、一九八八年六月〕

共同研究／笹川・信太・高橋他編『真名本會我物語 二』〈東洋文庫四八六〉

〔平凡社、一九八八年六月〕

征夷大將軍

〔安田元久監修・村井康彦編『戦乱の日本史〈合戦と人物〉第二卷 平安王朝と武士』第一法規出版、一九八八年六月〕

事典項目／三善氏

〔日本大百科全書 第二二卷〕小学館、一九八八年七月

事典項目／屋島の戦い、寄合衆

〔日本大百科全書 第二三卷〕小学館、一九八八年九月

三浦圭一氏の訃

〔日本歴史』四八五号、一九八八年十月

事典項目／連署

〔日本大百科全書 第二四卷〕小学館、一九八八年十一月

富士川合戦の前提―甲駿路「鉢田」合戦考―

〔立命館文学』五〇九号〈岩井忠熊教授退職記念論集〉、一九八八年十二月

三浦先生と私

（一九八八年 月

講演要旨／日米における日本史研究

〔香陵同窓会報』一六号、一九八九年七月

辞典項目／鳥羽、西陣

〔国史大辞典 第一〇卷〕吉川弘文館、一九八九年九月

はがき通信

〔日本歴史』五〇〇号、一九九〇年一月

「飛翔」の刊行にのせて

〔飛翔』創刊号、立命館大学体育会ヨット部、一九九〇年五月

北条政子の性格と評価

〔日本思想史研究会会報』八号、一九九〇年五月

共編著／京大日本史辞典編纂会編『新編 日本史辞典』編集・執筆（一〇九項目、七図表）

（東京創元社、一九九〇年六月）

執筆項目＝源頼朝、大番役、鎌倉、公家新制、源平の争乱、後白河天皇、後鳥羽天皇、征夷大將軍、北条氏、北条時政、北条時頼、北条泰時、北

条義時、源実朝、源義経、六波羅探題、吾妻鏡、安徳天皇、市川団十郎、梶原景時、関東御分国、関東御領、騎射、九条兼実、九条道家、

九条頼経、京都守護、御家人、摂家將軍、兵の道、比企能員、武家故実、北条政子、源通親、宮將軍、和田義盛、石橋山の戦、院の近臣、

院庁、院庁下文、市川左団次、一条能保、一の谷の戦、市村座、犬追物、男伊達、尾上菊五郎、笠懸、上総介広常、鎌倉大仏、鎌倉殿、

鎌倉番役、寛喜の飢饉、吉記、卿局、玉葉、禁秘抄、公暁、九条頼嗣、公事奉行人、熊谷直実、近衛基通、坂田藤十郎、沙汰未練書、

修禪寺、順徳天皇、勝長寿院、新編追加、駿府、大犯三箇条、鷹狩、丹後局、壇の浦の戦、千葉常胤、仲恭天皇、土御門天皇、鶴岡八幡宮、中村歌右衛門、畠山重忠、花園天皇、花道、非御家人、兵範記、平賀朝雅、武家名目抄、富士川の戦、藤原成親、平家没官領、平治物語、保元物語、宝治合戦、北条重時、北条高時、北条経時、北条時房、卷狩、牧の方、御内人、三浦泰村、源範頼、源頼家、陸奥留守職、宗尊親王、明月記、屋島の戦、流鏑馬、芳沢あやめ、国奉行

卷末付録図表Ⅱ北条氏系図、鎌倉将軍表、執権・連署表、六波羅探題表、鎮西探題表、評定衆表、鎌倉守護表

承久の乱後の新守護・地頭

鎌倉幕府の成立はいつととらえられるか

辞典項目／橋本

中世の洛西と仏教寺院

後鳥羽上皇の政権構想―承久挙兵の意図―、承久の乱両軍勢力地図

全国制覇をとともに喜ぶ

事典項目／法観寺

武門と公家

共編／『兵範記人名索引 Ⅱ』

鎌倉御家人と土地

アメリカにおける昭和天皇逝去に関する報道と『ヒロヒト、神話の陰に』放映をめぐる問題

源頼朝の上洛、(永井路子・松居径と共著) 頼朝、奇跡の復活―鎌倉武家政権の成立―

辞典項目／藤原兼子

源義経(千年の息吹―京の歴史群像―三三三)

京都か鎌倉か、足利尊氏の逡巡―その人と政治―

『建武式目』に見る足利尊氏の逡巡

『太平記』の群像

(『別冊歴史読本』十一月号「後鳥羽上皇」新人物往来社、一九九〇年十一月)

(『飛翔』インカレ優勝記念号、立命館大学体育会ヨット部、一九九〇年十二月)

(『世界宗教事典』平凡社、一九九一年三月)

(『史料京都の歴史 一 概説』平凡社、一九九一年三月)

(『立命館文学』別巻、一九九一年三月)

(『NHK 学校放送 ステップ&ジャンプ 一学期』日本放送協会出版、一九九一年四月)

(『NHK 歴史誕生取材班編『歴史誕生 一〇』角川書店、一九九一年六月)

(『NHK 歴史誕生取材班編『歴史誕生 一二』吉川弘文館、一九九一年六月)

(『国史大辞典 第一二巻』吉川弘文館、一九九一年七月)

(『京都新聞』一九九一年七月八日夕刊)

(『立命館大学学園通信(父母版) 夏号』、一九九一年七月)

(『立命館大学学園通信(父母版) 夏号』、一九九一年七月)

(『土曜講座だより』一八一号、立命館大学人文科学研究所、一九九一年九月)

(『立命館大学学園通信(学生版)』七五号、一九九一年十二月)

『太平記』の時代の人と政治

辞典項目／源通親

書評／田中稔著『鎌倉幕府御家人制度の研究』

インタビュー／古文書を読み味わう

事典項目／石橋山の戦、一ノ谷の戦、宇治川の戦、大内守護、大姫

編集・あとがき執筆／三浦圭一著『日本中世の地域と社会』（同書刊行会編）

事典項目／官打ち、京都守護、俱利伽羅峠の戦、建礼門院

源義経

辞典項目／山崎

諸報／三浦圭一教授のご遺族より立命館史学会への寄付金

事典項目／後高倉院、後堀河天皇、治承・寿永の内乱、修明門院、順徳天皇、承久軍物語、承久記、承久の乱、承明門院

安心立命の境地

事典項目／墨俣川の戦、高倉範子、壇ノ浦の戦、土御門天皇

北条時政と牧の方

事典項目／安楽寿院、一条能保、大江公朝、金沢貞顕、卿の局、後白河天皇、後鳥羽天皇、皇族將軍、西園寺公経、西園寺実兼、西園寺家、慈円、治承・

寿永の乱、城南宮、承久の変、摂家將軍、丹後局、長講堂、土佐坊昌俊、新田義貞、八条女院、平賀朝雅、九条兼実、藤原信西、藤原信頼、

藤原道家、藤原頼長、平治の乱、北条重時、北条時政、北条政子、北条泰時、保元の乱、坊門信清、源通親、源義仲、源頼朝、吉田定房、

六代、六波羅探題

事典項目／富士川の戦

鎌倉幕府の成立、『平家物語』と『新古今集』

ヨットの楽しみ？

「太平記」の時代

事典項目／法観寺、牧氏の変、三日平氏の乱、源通親、以仁王、屋島の戦、和田合戦、和田義盛（『日本史大事典 第六卷』平凡社、一九九四年二月）

（『立命館大学学園通信（父母版 冬号）』、一九九二年一月）

（『国史大辞典 第三卷』吉川弘文館、一九九二年四月）

（『週刊読書人』株式会社読書人、一九九二年四月二十日号）

（『若い樹』一九九二年十月号、京都近鉄百貨店）

（『日本史大事典 第一卷』平凡社、一九九二年十一月）

（思文閣出版、一九九三年一月）

（『日本史大事典 第二卷』平凡社、一九九三年二月）

（『日本史大事典 上巻』京都新聞社、一九九三年三月）

（『国史大辞典 第一四卷』吉川弘文館、一九九三年四月）

（立命館学園広報『UNITAS』二五二号、一九九三年五月）

（『日本史大事典 第三卷』平凡社、一九九三年五月）

（馬原鉄男氏追悼文集編集委員会編『回想の馬原鉄男』文理閣、一九九三年七月）

（『日本史大事典 第四卷』平凡社、一九九三年八月）

（『国史研究室通信』六号、京都大学文学部読史会、一九九三年夏）

（村井康彦編『新装版 京都事典』東京堂出版、一九九三年十月）

（『日本史大事典 第五卷』平凡社、一九九三年十一月）

（『日本歴史館』小学館、一九九三年十二月）

（『群鳩』四二号、立命館大学教職員組合、一九九三年十二月）

（『群鳩』四二号、立命館大学教職員組合、一九九三年十二月）

（『日本史大事典 第六卷』平凡社、一九九四年二月）

（『群鳩』四二号、立命館大学教職員組合、一九九三年十二月）

（『群鳩』四二号、立命館大学教職員組合、一九九三年十二月）

湖国の源氏

国司の土着と武士団の形成

(立命館大学人文科学研究地域研究室編『琵琶湖地域の総合的研究』文理閣、一九九四年三月)
(『静岡県史 通史編一 原始・古代』第三編第五章、静岡県、一九九四年三月)

事典項目／富樫家、兵範記、兵範記紙背文書、藤原忠親、藤原遠景、藤原良経、藤原良通、藤原能保、藤原行政、源実朝、源仲章、源義定、源義重、源義資、源義高、源頼家、三善康信
(『平安時代史事典』角川書店、一九九四年四月)

牧の方の出身と政治的位置―池禅尼と頼朝と― (上横手雅敬監修、井上満郎・杉橋隆夫編『古代・中世の政治と文化』思文閣出版、一九九四年四月)
検証・王城のいくさ―「平安」の夢路を破る保元・平治の乱― (村井康彦編『京都の歴史と文化二 武―貴族と鎌倉』講談社、一九九四年四月)

武門と公家

(林屋辰三郎責任編集『京都 歴史と文化 一 政治・商業』平凡社、一九九四年四月)

書評／上横手雅敬著『日本中世国家史論考』、同『鎌倉時代―その光と影―』

(『週刊読書人』株式会社読書人、一九九四年九月二十三日号)

事典項目／阿野全成、阿野時元、一条高能、一条能保、大姫、三幡、平信範、土御門通親、北条時定、北条泰時、牧の方、源範頼、源義仲、源頼家

(『朝日歴史人物事典』朝日新聞社、一九九四年十月)

The Origin, Proclamation, and Implementation of the Goseibai-shikimoku

(The East Asian Library Journal, Vol. VII No.2 Autumn 1994, Princeton University Press, N.J., U.S.A.)

節目と画期―創部五〇周年に寄せて―

(立命館大学体育会ヨット部『創部五十周年記念誌』、一九九五年十一月)

中世武士の成立をめぐる近業に寄せて

(『立命館文学』五四二号〈衣笠安喜教授退職記念論集〉、一九九五年十二月)

辞典項目／征夷大將軍

(『有識故実大辞典』吉川弘文館、一九九六年一月)

辞典項目／安達氏、安達盛長、今川大双紙、初参、大仏維貞、上総介広常、国大将、志田義広、征夷大將軍、曾我兄弟、名越氏、名越時章、名越朝時、名越光時、武家故実、武門の棟梁、北条兼時、北条仲時
(『新版 日本史辞典』角川書店、一九九六年十一月)

共編著／『藤井寺市史 通史編I 考古・古代・中世』(執筆) 古代第八章・中世第一章・同第二章

(藤井寺市、一九九七年三月)

共編著／京都府古文書調査報告書第一二集『鹿王院文書目録』

(京都府教育委員会、一九九七年三月)

私の出会った人(1) 赤松俊秀先生

(『立命館大学日本史学専攻新入生歓迎パンフレット』、一九九七年三月)

平氏政権の成立時期とその評価

(大山喬平教授退官記念会編『日本国家の史的特質 古代・中世』思文閣出版、一九九七年五月)

辞典概説及び項目／

ジャンル別概説 武家の歴史

姓氏項目 足利、伊賀、佐々木、二階堂、北条、源

人物項目 池禪尼、大姫、三幡、平頼盛、北条時政、北条政子、北条泰時、牧の方、源義朝、源頼茂、源頼朝

(『京都市姓氏歴史人物大辞典』角川書店、一九九七年九月)

インタビュー／『曾我物語』を読み解く (『若い樹』一九九七年十月号、京都近鉄百貨店)

遠江・駿河・伊豆武士団の形成と展開 (『静岡県史 別編三 図説静岡県史』静岡県、一九九八年二月)

私の出会った人(2)岸俊男先生 (『立命館大学日本史学専攻新入生歓迎パンフレット』、一九九八年三月)

共著／『静岡県の歴史』(本多隆成・荒木敏夫・山本義彦と共著) (山川出版社、一九九八年六月)

共同研究成果報告書／源氏物語サイバー研究所構築プロジェクト研究開発成果報告書 (立命館大学源氏物語サイバー研究所構築プロジェクト、一九九九年二月)

(立命館大学源氏物語サイバー研究所構築プロジェクト、一九九九年三月)

私の出会った人(3)大仁・三島・沼津から京都へ(改題) (『立命館大学日本史学専攻新入生歓迎パンフレット』、一九九九年四月)

共編／『兵範記人名索引 Ⅲ』 (『立命館文学』別巻、一九九九年四月)

一九九八年の歴史学界―回顧と展望―日本中世一(総論) (『史学雑誌』一〇八編五号、一九九九年五月)

辞典項目／安達景盛、安達氏、阿野全成、阿野時元の乱、伊賀氏、伊賀氏の変、伊豆山神社、一条能保、大内惟義、大内氏、大姫、鎌倉殿、公暁、建

久七年の政変、後藤基清、後藤基綱、後鳥羽天皇、執権政治、承久の乱、城氏の乱、平盛綱、竹御所、仲恭天皇、土御門天皇、富樫氏、比

企能員の乱、平賀朝雅の乱、藤原秀康、藤原光親、藤原宗行、宝治合戦、坊門忠信、牧の方、三島、三島大社、三日平氏の乱、源頼家、源

頼茂、宮將軍、宮騷動、宗尊親王、問注所、和田合戦 (以上、四三項目) (『日本史辞典』岩波書店、一九九九年十月)

序文 (『立命館文学』五六三号(筧・松本教授退職記念 中国文学論集)、二〇〇〇年二月)

序文 (『長野市宮崎遺跡第一〜五次調査概報』(立命館大学文学部学芸員課程研究報告書第九冊)、二〇〇〇年三月)

私の出会った人(4)三浦圭一先生 (『立命館大学日本史学専攻新入生歓迎パンフレット』、二〇〇〇年三月)

挨拶文 (『立命館大学英米文学専攻創設五〇周年記念 同窓会名簿』、二〇〇〇年九月)

川端君と兵範記輪読会 (『花筐』川端新君を偲ぶ会、二〇〇〇年十一月)

頼朝を支えた武士のなかの文士(官僚)たち (『アエラムック 六五 日本史がわかる』朝日新聞社、二〇〇〇年十二月)

時代概説／平安時代／治承・寿永の内乱

序文

〔『日本史事典』平凡社、二〇〇一年二月〕

序文

〔『立命館文学』五六八号〈中原章雄教授・児玉徳美教授退職記念論集〉、二〇〇一年三月〕

私の出会った人(5) 田中稔先生

〔『立命館大学日本史学専攻新入生歓迎パンフレット』、二〇〇一年三月〕

文学部長の推薦図書『平家物語』他

〔『学園通信』三三三号、二〇〇一年四月〕

あとがき

〔上横手雅敬編『中世公武権力の構造と展開』吉川弘文館、二〇〇一年七月〕

あとがき

〔上横手雅敬編『中世の寺社と信仰』吉川弘文館、二〇〇一年七月〕

グローバルスタンダードをめざす教学改革の現段階

〈二〇〇二年度以降における文学部教学の新展開〉

〔立命館学園広報『UNITAS』三三八号、二〇〇一年九月〕

序文

〔『立命館文学』五七三号〈神保菘教授退職記念論集〉、二〇〇二年二月〕

日本酒と鰻

〔石井進先生を偲ぶ会編『であいの風景』新人物往来社、二〇〇二年三月〕

「ご挨拶―ソルトレイクと岩倉使節団―」〔立命館大学ソルトレイクオリンピックプロジェクト活動報告〕立命館大学学生部・文学部、二〇〇二年三月

刊行によせて 〔二〇〇一年度「京都府井手町と立命館大学文学部とのインターンシップ」企画報告書〕立命館大学文学部、二〇〇二年三月

私の出会った人(6) 衣笠安喜先生

〔『立命館大学日本史学専攻新入生歓迎パンフレット』、二〇〇二年三月〕

甲辞、縄文豆腐と赤米の酒

〔『家根祥多さん追悼文集』ワインとマツカリと…家根祥多さん追悼文集刊行会、二〇〇二年四月〕

諸報／故家根祥多・文学部教授の遺志による寄付金で展示ケースを購入

〔立命館学園広報『UNITAS』三四四号、二〇〇二年四月〕

承久の乱直前・直後の守護・地頭配置図

〔週刊朝日百科『日本の歴史』四、二〇〇二年六月〕

聞き書きレクチャー／鎌倉幕府の成立はいつか

〔週刊再現日本史 鎌倉・室町一〕講談社、二〇〇二年十月

衣笠先生との約束

〔『真如の鐘―衣笠安喜先生を偲んで―』日本思想史研究会、二〇〇三年一月〕

甲辞

〔『日本思想史研究会公報』二〇号〈衣笠安喜先生追悼特別号〉、二〇〇三年一月〕

インタビュー記事／「清和源氏」か「陽成源氏」か

〔『京都新聞』二〇〇三年二月二十六日朝刊〕

序文

〔『立命館文学』五七八号〈家根祥多教授追悼記念論集〉、二〇〇三年二月〕

共著／岩倉使節団と国民国家形成〈共著者、山崎有恒・本郷真紹〉

〔『立命館文学』五七八号〈家根祥多教授追悼記念論集〉、二〇〇三年二月〕

共編著／〈京都府古文書調査報告第一四集〉賀茂別雷神社文書目録

〔京都府教育委員会、二〇〇三年三月〕

序文 (『向日市五塚原遺跡第一次～第二次調査概報』〈立命館大学文学部学芸員課程研究報告第一〇冊〉、二〇〇三年三月)

私の出会った人(7) 家根祥多さん

(『立命館大学日本史学専攻新人生歓迎パンフレット』、二〇〇三年三月)

序文

(『立命館大学考古学論集Ⅲ 〈家根祥多さん追悼論集〉』、二〇〇三年五月)

辞典項目／嵯峨、鳥羽、橋本、山崎

(『日本交通史辞典』吉川弘文館、二〇〇三年六月)

共編著／『藤井寺市史 補遺編』〈補遺・年表・索引・正誤表〉

(藤井寺市、二〇〇三年九月)

辞典項目／四条天皇

(米田雄介編『歴代天皇・年号辞典』吉川弘文館、二〇〇三年十二月)

共著／京都学デジタル図書館の構築と多言語情報アクセス〈共著者、前田亮・佐古愛己〉

(『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』〈情報処理学会シンポジウムシリーズ〉Vol.2003, No.21) 二〇〇三年十二月)

序文

(『立命館文学』五八三号〈伴利昭教授退職記念論集〉、二〇〇四年二月)

COEプログラム「防災研究拠点」の活動に期待します

(News Letter No.2 文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点〈立命館大学〉、二〇〇四年三月)

Expectation of COE program “Disaster Mitigation”

(News Letter No.2, Center of Excellence for Disaster Mitigation of Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University, March 2004)

私の出会った人(8) 石井進先生

(『立命館大学日本史学専攻新人生歓迎パンフレット』、二〇〇四年三月)

共著／日本古典における人間と環境―平安貴族とその周辺―〈共著者、佐古愛己・上島理恵子・井上幸治・宮田敬三〉

(『二一世紀COEプログラム京都アート・エンタテインメント創成研究(中間報告書)』立命館大学、二〇〇四年四月)

承久の乱前後の守護・地頭配置図

(北尾倫彦・祇園全祿編『新しい観点別評価問題集中学校社会』図書文化社、二〇〇四年六月)

共著／古記録データベースと歴史的空間情報のGIS化〈共著者、佐古愛己・河角龍典・前田亮〉

(『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集デジタルアーカイブデジタル学術情報資源と活用』

〈情報処理学会シンポジウムシリーズ〉Vol.2004, No.17) 情報処理学会、二〇〇四年十二月)

源頼朝、復活の「軌跡」、中世都市鎌倉復元図解説

(朝日ビジュアルシリーズ週刊「司馬遼太郎『街道をゆく』No.05 三浦半島記」朝日新聞社、二〇〇五年二月)

第二編第五章 荘園制の確立と武士社会の到来

(『沼津市史通史編 原始・古代・中世』沼津市、二〇〇五年三月)

共著／『兵範記』データベースと二世紀京都の歴史地図

企画・司会／〈立命館大学文学部人文学科開設記念シンポジウム記録〉歴史と文学のはざま
 〈二〇〇四年度活動報告書〉（立命館大学、二〇〇五年四月）

講演 永井路子：歴史小説を書きながら―小説家、史料を読む―

大山喬平：歴史の面白さ―その事実と歴史―

源健一郎：歴史を物語る仏法―『平家物語』の作られ方・読まれ方―

部長在任二〇年を回顧して（立命館大学体育会ヨット部『創部六十年記念誌』、二〇〇五年十一月）

取材記事／〈第一四回アカデミック京都ウォッチング〉杉橋先生と行く京都の義経、鞍馬寺

（『立命館大学父母教育後援会だより』二〇〇五年冬号、二〇〇五年十二月）

取材記事／Kyoto Studies and Exploring 12th Century Kyoto

（Risumeikan University NEWSLETTER, Vol.2 Issue 1, 2006 Winter 二〇〇六年二月）

単著／研究概要「日本古典における人間と環境―平安貴族とその周辺―」

共著／古記録データベースと歴史的空間情報のGIS化（共著者、佐古愛己・河角龍典・前田亮）

（以上、オープン・リサーチ・センター整備事業研究成果報告書『デジタル時代のメディアと映像に関する総合的研究』

立命館大学アート・リサーチセンター、二〇〇六年三月）

共著／『兵範記』と院政期京都―『兵範記』フルテキスト・人名索引データベース、地点解説 シートの作成―（共著者、佐古愛己・上島理恵子・井

上幸治）『二二世紀COEプログラム京都アート・エンタテインメント創成研究（二〇〇五年度活動報告書）』（立命館大学、二〇〇六年四月）

承久の兵乱と上賀茂社

辞典項目／四条天皇・七条院・宗孝親・平重盛・平信範・平宗盛・平盛時・平六代・藤原兼子・源通親

（平野邦雄・瀬野精一郎編『日本古代中世人名辞典』吉川弘文館、二〇〇六年十月）

事典項目／富樫家、兵範記、兵範記紙背文書、藤原忠親、藤原遠景、藤原良経、藤原良通、藤原能保、藤原行政、源実朝、源仲章、源義定、源義重、

源義資、源義高、源頼家、三善康信

事典項目／平重盛・平宗盛・平六代・源通親

（福田豊彦・関幸彦編『源平合戦事典』吉川弘文館、二〇〇六年十一月）

代表編著／兵範記輪読会編『兵範記人名索引』

（思文閣出版、二〇〇七年五月）

日本古典における人間と環境―平安貴族とその周辺―

〔立命館大学二一世紀COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」平成一四年度～一八年度最終成果報告書〕

立命館大学アート・リサーチセンター、二〇〇七年五月

共著／古記録データベースの閲覧インタフェースおよび検索手法の提案（共著者、小牟礼雅之・前田亮・佐古愛己）

〔『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』「情報処理学会シンポジウムシリーズ」Vol.2007, No.15 情報処理学会、二〇〇七年十二月）

教養部以来の交友を回顧する

（鎌田元一先生追悼事業会編『蝶から古代史へ―鎌田元一追想集―』、二〇〇八年二月）

等持院脇道での別れ（改題）

（清水教好君を偲ぶ会」実行委員会編『古書店主のごとき眼光で：』、二〇〇八年二月）

『立命館大学文学部の八十年』の刊行に際して

座談会／歴史を振り返り、未来を望む

〔立命館大学文学部の八十年』立命館大学文学部、二〇〇八年三月）

編著／「京都歴史回廊概論」講義報告集〈序言、はじめに（山崎有恒と分担）、洛西地域と西園寺・足利一門〉

（立命館大学歴史回廊プログラム、二〇〇八年三月）

駿河国大岡荘の領主権と政治的・文化的位

置（『立命館文学』六〇五号、二〇〇八年三月）

平安貴族の行動と見聞―古典史料アーカイブの試み―

（『グローバルCOE二〇〇七年度研究報告書』立命館大学、二〇〇八年三月）

共著／古典史料データベース検索システムの提案（共著者、木村文則・小牟礼雅之・前田亮・佐古愛己）

〔情報処理学会研究報告』Vol.2008, No.47 情報処理学会、二〇〇八年五月）

地域との連携による新たな教学展開―「京都歴史回廊プログラム」―

〔月刊京都』六八五号、白川書院、二〇〇八年八月）

活動報告／日本古典における人間と環境―平安京とその周辺―

（『オープン・リサーチ・センター整備事業デジタル時代のメディアと映像に関する総合的研究』

立命館大学アート・リサーチセンター、二〇〇九年三月）

編著／立命館大学京都文化講座ブックレット『京の乱』

（白川書院、〈はじめに、第一章 保元・平治の乱〉、二〇〇九年五月）

はじめに、保元・平治の乱―「平安」でなかった平安京―

シンポジウム記録（企画・司会）／『源氏物語』の読み方―学際的視野から―

講演 今西祐一郎 源氏物語研究の新展開―データベース化の意義―
中西 健治 源氏物語の隠れた読み巧者―北村湖春の人と仕事―

井上 満郎 源氏物語の国際的背景―「大和魂」の成立―

佐古愛己・上島理恵子 源氏物語の時代―人と文物、デジタル可視化の意義― (『立命館文学』六一二号、二〇〇九年六月)

シンポジウム (企画・司会) / 古行動 (Paleo Behavior) の分析―史学・考古学・心理学

(『日本心理学会第七三回大会発表論文集』、二〇〇九年八月二十七日)

列館の思い出

(『国史研究室通信』No.39 京都大学文学部読史会、二〇〇九年秋)

日本史学専攻の近況

(『立命館大学文学部校友会会報』創刊号、二〇〇九年十一月)

共著 / GISを用いた平安貴族の移動経路の分析 (共著者、吉田真澄、佐古愛己)

(『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』〈情報処理学会シンポジウムシリーズ〉Vol.2009, No.16) 情報処理学会、二〇〇九年十二月)

講義抄録 / 『源氏』の遺響と平安京―朱雀門の歴史的位置―

(『立命館大学父母教育後援会だより』二〇〇九年度冬号、二〇一〇年二月)

平安京の都市構造と貴族の行動様式―「移徙」と都市災害―City Structure of Heiankyo and Behavioral Pattern of Aristocrats ―“Watanashi” and

City Disaster―

(平成一七年度～平成二一年度私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」研究成果報告書)

編著 / 日本文化の源流を求めて 1 『文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築』、立命館大学歴史都市防災研究センター、二〇一〇年三月 (立命館文学部編、文理閣、〈あとがき〉、二〇一〇年四月)

活動報告 / 平安貴族の行動と見聞―古典資料アーカイブ利用の試み―

(『オープン・リサーチ・センター整備事業デジタル時代のメディアと映像に関する総合的研究』

立命館大学アート・リサーチセンター、CD版、二〇一〇年三月)

辞典項目 / 承久の乱・征夷大將軍、以下一七項目

(『国史大辞典』ジャパナレッジ・コム、二〇一〇年七月)

取材記事 / 土から分かる京都・滋賀の歴史 五 平安―鎌倉時代

(『京都新聞』二〇一〇年八月十五日朝刊)

彙報 / ホームカミングデー専攻別企画 (日本史学専攻)

(『立命館大学文学部校友会会報』二号、二〇一〇年八月)

取材記事 / 平安貴族行動 電子地図に

(『京都新聞』二〇一〇年十月十六日夕刊)

編著 / 日本文化の源流を求めて 2

(立命館大学文学部編、文理閣、〈あとがき〉、二〇一〇年十一月)

「若手」のリーダー石井さん

(『立命館文学』六二〇号 (石井美桑雄教授追悼記念論集)、二〇一一年二月)

紹介 / 井上満郎「平安京の光と陰―桓武天皇と渡来人」

(『The CD Club』第二〇巻第四号、ソニー・ミュージックダイレクト、二〇一一年三月)

活動報告 / 平安貴族の行動と見聞―古典資料アーカイブ利用の試み―

『GCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」二〇一〇年度活動報告書』立命館大学、CD版五頁分、二〇一一年三月）
研究自己紹介
（〈学域専攻パンフレット〉『ピタッと学ぶ 文化を探り、人間を考える』、立命館大学文学部、二〇一一年三月）
編著／京都文化講座ブックレット『京都の公家と武家』
（白川書院、〈はじめに、京都の朝廷と関東の府〉、二〇一一年七月）
日本史学専攻の近況
（『立命館大学文学部校友会報』第三号、二〇一一年十一月）

